

6 音楽科における環境教育の学習指導事例（第3学年）

環境教育の視点とのかかわり

児童が自分の身の回りのいろいろな音の響きに気づき、そのよさや美しさを感じ取り、自分の表現しようとするイメージに合った音を選んだり、その音を重ねたり組み合わせたりして表現する楽しさを味わうことができるようにしていく。

- 楽曲の気分合った音色を探す。
- 自分たちの表現意図に合った楽器の音色を組み合わせる。
- 互いの音を聴きながらアンサンブルを工夫する。

1 題材名 みんなで合わせて

2 題材について

この時期の児童は、旋律のもつ固有の音色やその美しい響きに対する興味・関心が高まり、楽器の演奏に意欲的に取り組むようになる。このような児童のよさを生かして、個々の楽器にじっくりと取り組んだり、簡単な合奏や小アンサンブルを楽しく行ったりする活動を通して、楽器の基礎的な演奏技能を身に付けていくようにすることが大切である。

また、身の回りのいろいろな音の響きに気づき、児童一人一人のイメージに基づいて自由な発想が生まれる時期でもある。この自由な発想を生かして音を選び、それらを重ねたり組み合わせたりして、表現する楽しさを味わうことができるようにしていく。一つの楽器や音の素材から何種類もの音が出せること、身の回りのいろいろなものを楽器とすることができること、声も楽器のように使うことができることなどに気付くようにしたい。

こうした一連の活動を通して、音に対する感受性を高め、自分たちの生活の中の音にも関心をもって、音環境を主体的に整える態度を身に付けさせたい。



「その音いいね」

3 題材の目標

- 互いの音を聴きながら、拍の流れにのって旋律を表現することができるようにする。
- 楽器の音色や声の重なりを感じ取りながら、表現を工夫することができるようにする。

4 教材

(1) 「あわてんぼうのうた」 まどみちお 作詞 外国曲

愉快な曲の気分合う楽器の音を見つけてアンサンブルすることのできる楽曲である。試しに楽器の音を出してみたり、いろいろな楽器の音色を合わせてみたりして、自分たちのイメージに合う楽器の音色を選択していく。アンサンブルをつくっていく過程において、友達と相談しながら学習を進め、コミュニケーションを図る態度と能力の育成も図っていききたい。音色の選択肢として、音楽室にある様々な楽器や身の回りのものを用いて、音色をよく聴いて選択するという活動の充実を図っていききたい。

また、それぞれのパートの役割を体験できる楽曲である。打楽器も加えて、基本的なアンサンブルの編成で楽しく演奏することができる。納得のいくまで繰り返し活動に取り組むときに、パソコンやフロッピーディスクオルガンをすることもできる。

(2) 「バード ウォッチング」 土肥武 作詞 石桁冬樹 作曲

題名や歌詞から小鳥の様子を観察している様子を想起できる教材である。重なり合う声と楽器の響きを感じ取って表現を工夫することができる。互いの音をよく聴いて、音を重ねるおもしろさを感じ取ることができるようにしていきたい。また、パートナーソングになっているので、曲の前半と後半の旋律を重ねて歌ったり演奏したりして楽しむことができるようになっている。音の重なり合う響きのおもしろさを感じ取ることができるようにしていきたい。

さらに、楽器の組合せの工夫の活動として、リコーダー等を用いて、鳥の鳴き声の様子をつくって表現していくような活動も期待できる。

(3) 「二人でおどらしましょう」 フンパーディンク 作曲

グリム童話の物語を基に作られた歌劇「ヘンゼルとグレーテル」の中の楽曲である。よく知られた物語なので、粗筋を思い浮かべながら聴くことができる。二重唱の歌声の響き、歌声とオーケストラの響きの重なりを聴くことのできる曲である。

(4) 「パフ」 英龍明子 作詞 ピーター ヤーロウ・レナード リプトン 作曲

これまでの楽器を用いたアンサンブルのまとめとして扱うことができる教材である。この楽曲は、主旋律、和声の響きを与えるパート、対位的な動きで主旋律を飾るパート、低音のパート、リズム伴奏のパートで構成されている。楽器は指定されておらず、自分たちのイメージに合わせて、自分たちで考えて選択するようになっている。この楽器を選択する活動を充実していくことによって、音をよく聴いて考えるという態度と能力を高めていくことができる。またアンサンブルでも、楽器の音量のバランスを考えて、互いの音をよく聴くことが求められる。友達と協力し合ってアンサンブルをつくっていく楽しさを味わえるようにしたい。

5 題材の指導計画・評価計画

(1) 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能	エ 鑑賞の能力
音の響きや音の重なりに関心をもって、進んで歌ったり演奏したりしようとする。	音の響きや音の重なりを感じ取って、楽器を選択したり楽器の組合せを工夫したりしている。	互いの音を聴きながら、拍の流れにのって歌ったり演奏したりしている。	音の響きや音の重なりを感じ取って聴いている。

(2) 指導計画・評価計画の概要 (13時間)

時	学習活動	具体的評価規準
<p><第1次>互いの声や楽器の音を聴きながら歌ったり、重なった音の響きを感じ取ったりする。</p>		
1 3	<p>「あわてんぼうのうた」 「バード ウォッチング」 ○旋律を歌詞唱したり階名唱したりする。 ・曲の感じをつかむ ・伴奏に合わせて歌う。</p>	<p>ア：音の響きや重なりに関心をもって、歌ったり演奏したりしようとする。(活動の観察) ウ：相手の音や伴奏を聴きながら、拍の流れにのって歌ったり演奏したりしている。(活動の観察)</p>
<p><第2次>楽曲の気分合う音色を選択したり音を重ねたりして表現を工夫する。</p>		
4 9	<p>「バード ウォッチング」 ○互いの旋律を聴き合いながら歌う。 ・二つの旋律の感じをつかむ。 ・二つの旋律を重ねて歌う。(パートナーソング) 「あわてんぼうのうた」 ○曲に合うように楽器を選択する。 ・各パートの楽器を選択する。 ・リズム伴奏を工夫する。 ・互いの音を聴き合って演奏する。 「二人でおどきましょう」 ○歌声とオーケストラの重なりを味わって聴く。 ・場面の様子を思い浮かべて聴く。</p>	<p>ウ：友達の歌声を聴いて、みんなの声と合わせて歌ったり伴奏やほかの楽器の演奏を聴いたりして歌っている。(活動の観察) イ：音の響きや音の重なりを感じ取って、楽器を選択したり楽器の組合せを工夫したりしている。(活動の観察) ウ：相手の音を聴きながら演奏している。(活動の観察) エ：いろいろな楽器の重なり合いと声の重なりを感じ取って聴いている。(感想の発表、学習カード)</p>
<p><第3次>音の重なりを感じ取って表現を工夫する。</p>		
10 13	<p>「パフ」 ○主旋律を演奏する。 ・歌ったりリコーダーで演奏したりする。 ・各パートの感じをつかむ。 ○楽器を選択する。 ・よく聴いて選択する。 ・パートに合った楽器を選択する。 ・リズム伴奏を工夫する。 ○合奏する。 ・各楽器の音色や音量を考えて演奏する。</p>	<p>ア：自分のめあてに向かって繰り返し取り組んでいる。(活動の観察) イ：旋律の重なりを聴きながら、楽器の組合せを工夫している。(活動の観察) イ：曲に合ったリズム伴奏を工夫している。(活動の観察) ウ：楽器のもつ音色の美しさを生かして演奏している。(活動の観察、演奏)</p>

6 実践事例

- (1) 教材 「あわてんぼうの歌」
- (2) 目標
旋律の重なりを感じ取って工夫して表現することができるようにする。
- (3) 活動の概要
合奏で自分が演奏する楽器を選択する。その際、旋律を歌ったりリコーダーで演奏したりして、曲の感じに合う楽器を選択するようにする。また、楽器の音をよく聴く活動を繰り返し行い、音に対する感性をはぐくんでいく。



「いい音がするね」

- (4) 展開 (※は環境教育にかかわる支援)

学習活動	教師の支援・評価
<p>1 「あわてんぼうの歌」を歌う。 ・伴奏に合わせて歌う。 ・主旋律をリコーダーで演奏する。</p>	<p>・歌ったりリコーダーで演奏したりすることで、曲の感じを確認するようにする。 ・身体表現やリズム打ちなどをしながら歌い、楽しい学習の雰囲気をつくり、活動意欲を高めるようにする。</p>
<p>音のかさなりに気をつけて くふうして合そうしよう</p>	
<p>2 活動のめあてを確認する。 ・板書や教師の言葉から確認をする。 ・どんな学習活動をするのかを考える。</p>	<p>・「かさなり」とはどんなことか、「くふう」とは具体的にどんな活動をするのかを明確にし、活動の意図を明らかにする。</p>

- 3 グループでアンサンブルをする。
 ・演奏する楽器を決める。



「いろいろとあるよ」



「なかなかいい音だね」

- ・試しに合わせてみる。



「けっこう合うね」

- ・話し合いながらアンサンブルを工夫する。



「けっこうよかったよね」

「かさなり」
 音の響きが重なること。ここでいう「響き」とは、歌声や楽器自体の発する音そのものである。

「くふう」
 ・いろいろな音（楽器）を見つけること。
 ・一つの楽器からいろいろな音が出ることを見つける。
 ・いくつもの楽器の音が合わさったときの響きの感じを聴いて、この曲に合う音の組合せを見つける。
 ・グループで話し合っ、どんな合奏にするのかを決めていくこと。

- ・グループで音を聴き合ったり話し合ったりして楽器を選択するような活動の場を設けるようにする。



「じゃあ、どうする？」

- ※自分たちが使う楽器をよく聴き合っって選択できるようにする。
 ※試しの合奏を十分に行い、音が合わさったときにどのような響きになるのかを、自分たちの耳で確かめるようにする。
 ・友達同士でアドバイスをし合いながら、協力してアンサンブルをつくっていくようにする。



「こっちの方がいい音みたい」

- 評：音の響きや音の重なりを感じ取っ、楽器を選択したり楽器の組合せを工夫したりしている。
 (ウ、活動の観察)
 ※互いの楽器の音をよく聴きながら工夫するようにする。
 ※自分たちの音に集中できるように、コーナーや別室を設定して、楽器の組合せや音のバランスを確かめられるようにする。
 ・互いの表現のよさを聴き取り、自分たちの表現に生かせるようにする。
 ※楽器の組合せや音量のバランスに気を付けて聴いて、アンサンブルができるようにする。

◎グループ活動のサイクル。(代表的なモデル)

- ・グループで合わせる。
- ↓
- ・楽器のバランスに重点を置いて、演奏を聴き取る。
- ↓
- ・話し合って工夫をする。
- ↓
- ・練習をする。
- ↓
- ・グループで合わせる。

- 4 グループ同士で聴き合う。
- ・順番に発表していく。
 - ・中間発表のような位置付けで、互いの演奏を聴く。



「わたしたちはこんな音を見つけました」

- 5 本時のまとめをする。
- ・学習カードに記入する。



- ・最後の確かめ(音出し)をする。



「この音できまりだね」

※楽器の音を聴いて探す活動を充実するようにする。



「音がちがうよ」



「ばちをかえてみよう」

評：相手の音を聴きながら演奏している。

(ウ、演奏の様子、学習カード)

- ・グループで本時の活動の様子を話し合い、自分の考えを出し合う。
- ・自分たちの表現の仕方でもよかったところや課題を明らかにしていくようにする。
- ・自分たちの表現のよさ、他のグループの表現のよさを発表し、次回の課題をより明確につかめるようにする。
- ・一回だけ試すことで次時への期待を高めるようにする。

あわてんぼうの歌 3年2組 名前
 わたしはメロディーで、てきんなので、とても
 小さな音が、みんなの足をひびかせない
 ようにがんばります。

あわてんぼうの歌 3年2組 名前
 みんなの音が、長い間、とてもいい音が
 思いました。あと、まちがちな音を、け
 ずす。バランスもよかったです。次にかえり
 たい。こは、まちがちな音を、けずります。

「児童の学習カードの記述から」

※自分の選択した楽器について、音量や音色を考えることができた。また、互いに音を合わせたときに、どのように聞こえるかについて、意識をもたせることができた。このよさを生かして、次時以降も音を聴く楽しさを、続けて味わわせていきたい。